

音楽科学習指導略案

4年3組 37名 指導者 榮 留 由 華

本授業は、以下の検証を行うものである。

- 「見える図」等を活用することは、自分の思いや意図を明確にもち、音楽表現に結び付けるための手立てとして有効であったか。
- 「試す」⇔「聴き合う」活動を取り入れた協働的な「学び合い」を行うことは、曲にふさわしい音楽表現を吟味し、自分の表現に生かすための手立てとして有効であったか。

- 1 題材 明るい歌声をひびかせよう
 教材 「いいことありそう」里乃塚玲央作詞／佐井孝彰作曲
 歌劇「魔笛」から「パパゲーノとパパゲーナの二重唱」モーツァルト作曲
 「歌のにじ」佐田和夫作詞／岡部栄彦作曲

〔共通事項〕 音色、リズム、旋律、音の重なり、音階、調、フレーズ、問いと答え

2 指導計画（総時数7時間）

主な学習活動【評価規準】	〔共通事項〕	時間
いいことありそう 1 旋律の特徴を感じ取り、主な旋律を歌ったり、長調の音階について知り、音の高さに気を付けて階名唱したりする。 【関：ハ長調の楽譜を見て、歌詞や階名で歌う学習に進んで取り組もうとしている。】 2 副次的な旋律を階名唱し、鍵盤ハーモニカで演奏したり、主な旋律と副次的な旋律を合わせて演奏したりする。 【技：ハ長調の楽譜を読み、音の高さやリズムに気を付けて歌ったり、ハ長調の楽譜を見て鍵盤ハーモニカで演奏したりしている。】 音の高さに合わせて手を動かしながら歌うことで、音の動きや旋律の流れを捉え、歌詞や階名で歌うことができるようにする。	リズム 旋律 音の重なり 音階 調	1 1
歌劇「魔笛」パパゲーノとパパゲーナの二重唱 3 男声と女声の歌声の掛け合いを感じ取って聴いたり、掛け合いをする部分や重なっている部分に気を付けて聴いたりする。 【関：二重唱で歌われる音楽に興味・関心をもちながら、楽曲全体にわたる曲想とその変化を感じ取って聴く学習に進んで取り組もうとしている。】 4 二人の歌声の掛け合いや重なり面の面白さを感じ取りながら楽曲全体を聴き、想像したことを言葉で表す。 【鑑：二人の歌声とその掛け合いや重なりを聴き取り、想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲の特徴や演奏のよさに気を付けて聴いている。】 3つの部分について、二人はどんな会話をしているのか、想像して話し合うことで、歌声の掛け合いや重なり面の面白さを感じ取りながら、聴くことができるようにする。	音色 旋律 音の重なり 問いと答え	1 1
歌のにじ 5 旋律の音の動きや特徴を感じ取りながら、主な旋律を歌ったり、副次的な旋律を演奏したりする。 【関：主な旋律を聴きながら、自分の音を合わせて演奏する学習に進んで取り組もうとしている。】 6 歌とリコーダーの旋律の重なり合う響きを感じ取りながら演奏する。 【創：主な旋律と副次的な旋律の重なりを聴き取り、重なり合う響きのよさを感じ取りながら、音を合わせて演奏する表現を工夫している。】 7 音の選び方を工夫して、「せんりつづくり」をし、主な旋律と副次的な旋律を合わせて演奏する。 【技：主な旋律の歌声を聴きながら、音色に気を付けてリコーダーを演奏している。】 主な旋律と副次的な旋律の特徴を話し合ったり、いろいろ試しながら旋律をつくったりすることで、自分の思いや意図をもって表現したり、友達の表現を互いに聴き合ってそのよさを発見したりすることができるようにする。	音色 旋律 音の重なり フレーズ	1 1 (本時) 1

3 本時（6／7）

(1) 目標

歌とリコーダーの旋律の重なり合う響きを感じ取りながら演奏することができるようにする。

(2) 評価規準

主な旋律と副次的な旋律の重なりを聴き取り、重なり合う響きのよさを感じ取りながら、音を合わせて演奏する表現を工夫している。

【音楽表現の創意工夫】

(3) 指導に当たって

「つかむ」「見通す」過程では、リコーダーを演奏する際に必要な技能について、提示カードで確認しながら活動を進めるようにする。「追究する」過程では、拡大楽譜を提示して楽曲を分析し、主な旋律と副次的な旋律の特徴に気付かせることで、思いや意図をもち、意欲的に練習に取り組めるようにする。「磨き合う」過程では、「試す」⇔「聴き合う」活動を取り入れることで、互いのよさに気付きながら、必要な技能を身に付け、自分の音楽表現に生かすことができるようにする。「振り返る」過程では、めあてに沿って学習を振り返るとともに、自分たちで音楽を作り上げるよさや達成感を味わわせたい。

(4) 本時の展開 ☐ 重点化するスキル [] 子どもの意識 ○指導の手立て ※評価

過程	時間	主 な 学 習 活 動	指 導 の 手 立 て
つかむ	10	1 リコーダー遊びをする。(音タイム) ・ 低い音は、息の量に気を付けよう。 ・ 「トゥ」の発音でタンギングするとよかったね。 ・ 指づかいにも気を付けよう。	○ 「音タイム」でリコーダー遊びをすることで、タンギングや息の量、運指に気を付けて本時の課題に取り組めるようにする。 ○ 前時を振り返ることで、旋律の音の動きや特徴を感じ取りながら歌わせるようにする。
見通す		2 前時の学習を生かして、「歌のにじ」を歌う。 ・ 3段目が1番盛り上がるように歌おう。 ・ この前、リコーダーも練習したから、歌と一緒に合わせたいな。 3 学習課題を確かめる。 歌とリコーダーのせんりつを合わせて演奏するには、どうすればいいのだろうか。	
追究する	15	4 主な旋律と副次的な旋律の特徴について考え、話し合う。(個人→全体) 比較する ・ 3段目は歌とリコーダーの旋律が追いかけてっこになっているぞ。 ・ リコーダーの旋律は、2分音符が多いな。 ・ 2段目の最後は旋律の音の動きが似ているぞ。	○ グループ活動を活発に行えるようにするために、主な旋律と副次的な旋律の重なりを手拍子等で確認したり、階名唱をしたりする。 ※ 主な旋律と副次的な旋律の重なりを聴き取り、重なり合う響きのよさを感じ取りながら、音を合わせて演奏する表現を工夫している。 (演奏観察・演奏聴取)
磨き合う	15	5 全体で話し合ったことを基に、グループで練習し、発表する。 ・ 歌とリコーダーの出だしの部分に気を付けよう。 ・ 休符を感じながら演奏しよう。 ・ 歌声を聴きながら、演奏しよう。	○ 積極的にリコーダーを演奏している子どもには、さらに、音色に気を付けたり、フレーズを感じたりしながら演奏するよう助言する。 ○ 活動が停滞している子どもには、運指表が書かれた楽譜を提示したり、教師が息づかいについて助言したりするようにする。
振り返る	5	6 グループで練習したことを生かして、全体で演奏する。 ・ みんなで合わせると、きれいだな。 ・ 歌とリコーダーがぴったり合うと気持ちがいいな。 ・ リコーダーと合わせると、もっとすてきな音楽になるね。 7 本時の学習を振り返るとともに、今後の学習について話し合う。 おたがいの声や音をききながら合わせて演奏するといひ。	○ それぞれのグループのよさについて全員で共有するために、演奏を発表した後に、よかった点について話し合う。 ○ 最後の全体演奏を録音し、最初の演奏と比較して聴かせることで、歌だけではなくリコーダーと合わせることで、より音楽が豊かになるということを味わわせる。